まもる通信

活力ある地域社会と人のふれあい
ともにいっしょに

寺田守 後援会だより

発行:寺田守後援会
会長　鈴木昌二
袋井市久能1810-11
TEL:(44)1351
mamorut@yr.tnc.ne.jp

2011 vol.9
6月議会号

平成23年度6月市議会定例会が、6月6日から29日までの会期で開催されました。今議会に提出された議案は、補正予算3件9900万円、男女共同参画推進条例など条例制定・改定6件、この他に駅舎建設工事委託、財産分与に関するものなど4件で、いずれも可決されました。

今回の補正予算で特徴的なのは、防災対策や災害支援、節電対策の費用などが追加されたことです。

議員提出の意見書では、福島第一原子力発電所の原子力災害を受けて2つの意見書が採択されました。

◆「**原子力発電所の安全対策の強化を求める意見書**」

◆「**茶の放射性物質検査に関する意見書**」

↑市内富里、松秀寺の水蓮

◎補正予算の内訳

【住宅耐震性向上のための補助】 …… **4530万円**
一般住宅90万円、高齢者住宅110万円（補助額30万円増額）

【被災地への救援物資提供に伴う備蓄資材の補充】 **2500万円**
アルファ米、毛布、防災テント、簡易トイレなど

【放課後児童クラブ、保育所休日運営費用】 …… **630万円**
節電対策による企業の就業日変更などに対応

【家庭版エコチャレンジ事業】 …… **250万円**
8～9月15%節電した家庭にLED電球1個進呈など

【自主(連合)防災隊育成事業】 …… **320万円**
被災地（岩沼市）へ防災関係者120人を派遣、視察

【津波避難基礎調査事業】 …… **450万円**
避難経路など津波を想定した基礎調査費用

【老人福祉「俳諧SOSネットワーク事業」】 …… **280万円**

【社会教育「公民館建物、長寿命化調査費」】 …… **790万円**

【災害支援事業「オール袋井」対応事業】 …… **150万円**
釜石市、岩沼市、東北地方を全市で支援していくための事業費

釜石市　人口約4万人の岩手県三陸の中核都市、今回の震災では、死者、行方不明者が1200人以上という大災害をうけた。同市は新日本製鉄のまちとして有名だが、近代製鉄を初めて成功させた偉人の中に袋井市村松出身の横山久太郎がいる。同市の「鉄の博物館」には、氏の業績をたたえる資料や胸像が展示されている。市はこの縁をもとに支援を行っている。

岩沼市　人口約4万4千人の仙台市の近郊都市、市境には仙台空港がある。同市は阿武隈川が海に注ぎ、仙台平野が広がる袋井市とよく似た地形となっている。今回の震災では、津波が内陸深くまで入り、死者行方不明150人という惨事となった他、多くの農地が津波に流された。昨年、同市の防災関係が袋井市を視察に訪れたことをきっかけに交流が続いている。

これまで市民の皆様から頂きました義援金3870万円3489円は、釜石市40%、岩沼市20%、その他40%の割合で被災地に届けられました。

市防災計画の見直しと今後の取組み

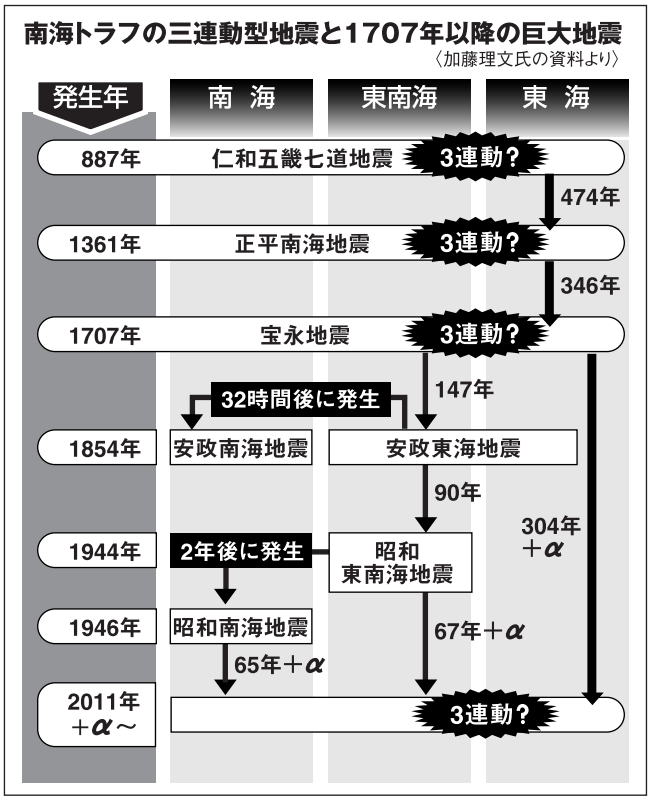
当市の現在の防災計画は、静岡県による「第3次地震被害想定」に基き策定したもので、想定される被害をもとに対策を進めてきました。これまで市が取組んできた防災対策は、次の7つの主要施策となっています。

① 公共建築物の耐震対策
② 一般住宅の耐震対策
③ 防災関連施設・設備の整備
④ 自主防災組織の活動強化
⑤ 医療救護の対策
⑥ 市民への広報啓発
⑦ ライフライン等今後の対策

しかし、今回の東日本大震災の発生によって新たな対策の必要性が明らかになってきました。今回見直されるのは、次の4つの事態への対応です。

① 東海、東南海、南海3連動型による巨大地震への対策

これまでの被害想定は、東海地震の発生をもとにしたものでしたが、今回の東日本大震災では、M9.0という過去最大規模の地震が発生したように、3連動型では新たな見直しが必要となっています。



↑地震対策地域意見交換会（6/17北公民館）

↑東日本大震災（災害支援隊報告会　5／8東分庁舎）

② 津波被害への対策

これまで浅羽海岸で想定される津波の高さは、3.6m～5.3mとされてきました。浅羽海岸の防砂林の高さは海抜9mの高さがあり、これを超える津波は想定してきませんでした。

③ 液状化被害への対策

今回の大地震で千葉県浦安市は、広範囲で地盤の液状化被害による被害が発生しました。当市も軟弱地盤が多く、全地域の62.6%が液状化の被害を受けると予想されています。

④ 原子力発電所防災対策

福島第一原子力発電所の事故はレベル7という深刻な事態となり、被害は広範囲に及んでいます。浜岡原子力発電所から30kmに入る当市もこれを視野に入れた防災対策が改めて問われています。

今後の防災計画では、市民との協働のまちづくり、パートナーシップよる手法が重要になっています。防災計画の作成には、行政は勿論、市民との連携が欠かせません。また、市の中でも地形的には異なるものがあり、地域の状況も様々です。パートナーシップによる防災計画では、それぞれの地域の防災の課題を洗い出し、自助・共助・公助のあり方を見直していきます。

これから1年に掛けて防災計画の見直しが始まります。

地震対策地域意見交換会（4月～）→パートナーシップによる地域防災対策会議（7月～）→袋井市の地震対策の取組み→袋井市防災会議（次年度）

＜市災害対策本部での各種災害対応の見直し＞

＜国、県による第4次被害想定の公表＞

市政直言 私の一般質問から

自転車道の整備について

質　問　袋井商業高校西側の袋井春野線の歩道は、多くの通学の自転車や児童に利用されている。安全性を高めるため、歩道に歩行者と自転車分ける走行帯を設けたらどうか。

回　答　歩道内の歩行者と自転車の通行を分ける「普通自転車歩道通行部分の指定」がされるよう警察署、県土木事務所へも強く働きかけたい。

↑袋井春野線、袋井商業高校付近の歩道。

多文化共生について

質　問　外国人児童生徒の不就学が問題となっているが、小中学校での支援体制はどのようになっているか。

回　答　外国人適応教室担当教員や支援員が指導にあたっているが、今後も継続的に支援が必要であると考えている。不就学児童生徒の解消のため「虹の架け橋教室」とも連携して支援して行きたい。

質　問　多文化共生事業の展開のために、国際交流協会にその役割を期待してはどうか。所在地も市役所の近くにあれば、行政との連携もとりやすく利用がしやすいと思われる。

回　答　国際交流協会の皆様方と、新たな多文化共生事業の取組や事務所の場所などについて今後話合いをして行きたい。

↑袋井国際交流協会事務所。

ブラジルにはかつて、1908年（明治41年）笠戸丸による最初の日本移民団以降、30万人が海を渡ったといわれる。掛川市の生涯学習センターには、掛川市出身で「日系人社会の礎を築いた父」と慕われた平野運平の胸像が建てられている。氏は移民団を現地で迎え、通訳兼指導者として開拓者に同行し、現地での支援にあたった。現在日本に住む日系ブラジル人には、3世までの人とその関係者に定住権が認められている。

←掛川市の生涯学習センターに建てられている平野運平の胸像。

節電対策について

質　問　節電対策で15%削減をうたって市庁舎の照度を下げているが、問題は無いか。今後、LEDなど節電器具に交換していく必要があるのでは。

回　答　JISの照度基準もあるが、労基法の300ルクス以上を確保して進めている。LED照明については費用も多額に掛かることから、今後の財政や市場動向を見ながら判断して行きたい。

↑15%削減された市役所庁舎の照明。

☺みんなの力で住み良いまちをつくろう

まちかどウォッチング

袋井北小学校プールが完成

6月1日袋井北小学校の水泳プールが完成し、落成式が行われました。建設事業費は、約1億8800万円で、25m×8コースの大プール、96m²の小プールが完成、また災害時に備えた浄化装置が設けられています。当日は少し肌寒い天気でしたが、式典の後、袋井市出身でオリンピック候補にもなった筑波大学院生の角川隆明さんの模範水泳が披露され、また5,6年生による泳ぎ初めが行われました。

←角川さんの模範水泳。　↑落成式での泳ぎ初め。

油山寺で八十八夜茶「新茶祭り」

↑日本一大きな栄西禅師像の前での献茶式。

八十八夜にあたる5日5日、油山寺で袋井八十八夜茶「新茶祭り」並びに茶祖栄西禅師尊像献茶式が、袋井市茶振興協議会などの主催で開催されました。栄西禅師は、中国より日本に初めて茶を紹介した僧として知られていますが、油山寺には昨年修復した日本一大きな栄西禅師像が建てられています。式典ではこの像の前で献茶の式典を行うと共に、茶業の発展を祈りました。

護国塔石碑文の拓本採り

今年で建立100年になる可睡斎護国塔を顕彰するため「伊東忠太・可睡斎護国塔100年展」実行委員会が活動を行っていますが、5月26日に石碑文の拓本を採る作業が行われました。この作業には、県書道連盟理事長の大谷青嵐氏が指導にあたられ、市内の書道関係者も多く参加されました。護国塔は、日露戦争の戦死者を慰霊するために建てられたもので、石碑には建立のいわれや建設に関係された方の名前などが刻まれています。

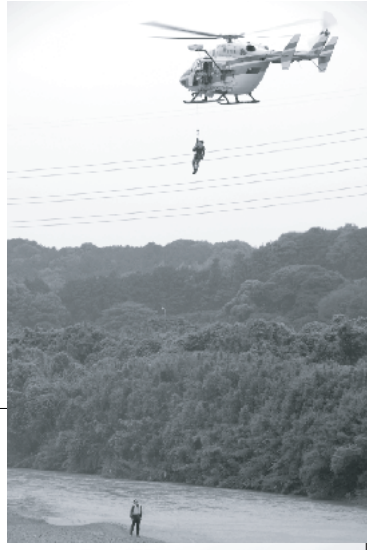
↑石碑文を写し取る拓本作業。

福島第一原発からの現地報告

↑講演会で報告する佐藤いわき市義。

5月21日、福島第一原発に隣接するいわき市の市議：佐藤和良氏が、「福島原発震災の報告を聞く会」の招きで当市を訪れ、メロープラザで講演を行った。この講演には、約350人の市民などが参加し、現地の生々しい惨状に聞き入った。避難勧告が出された当時、原発から30ｋｍにあるいわき市には、現地から避難する車が殺到し、人口34万人の同市も1/3の人が避難したと言う。

太田川で水防訓練

6月12日、今年度の太田川原谷川水防組合による水防訓練が、市内小山の太田川河川敷で行われました。水防組合は、当市をはじめ磐田市、掛川市、森町の3市1町で構成されていますが、今年の訓練は第33回となります。昭和49年の七夕豪雨では、太田川水系でも堤防の決壊や洪水など大変な災害に見舞われましたが、今回の訓練では各地の水防団をはじめ消防署、警察、小山自治会などが参加し真剣な訓練が行われました。

↓→水防訓練の様子。ヘリコプターによる救助訓練も行なわれた。